

滑稽和合人

編

上

13
3128
10



特
へ13
3128
10

帝

全機學

自序 



僕 せんねん 先年 ねん 總 つと 中 ちゅう 年 ねん 類 るい 浮 う 海 かい

如 ひん 事 こと 金魚 きんぎょ の 鱗 うろこ の 一 ひと つ

中 ちゅう の 小 せう 伎 ぎ を 以 もつ て 十 じゅう 年 ねん 以 もつ て けい

志 し 願 げん 十 じゅう 年 ねん 以 もつ て 十 じゅう 年 ねん 以 もつ て けい

心 こころ 願 げん 十 じゅう 年 ねん 以 もつ て 十 じゅう 年 ねん 以 もつ て けい

三年(さんねん)よりぬ戯作者(げさくしや)の意(い)の様(よう)が
 人(ひと)の世(よ)の心(こころ)の如(ごと)く教(しやく)を不(ふ)得(とく)し
 筆(ふで)をなすもあつて五(ご)六(ろく)年(ねん)書(か)き終(お)つた
 備(び)へて時(とき)に不(ふ)得(とく)の道(みち)を
 當(あた)りて又(また)筆(ふで)をなす事(こと)始(はじ)り出(い)で
 是(これ)より心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)

Blondal 101

左(ひだり)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)
 一(ひと)の心(こころ)に筆(ふで)をなす事(こと)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)
 後(あと)編(へん)をなす事(こと)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)
 心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)
 筆(ふで)をなす事(こと)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)
 筆(ふで)をなす事(こと)の如(ごと)く心(こころ)の如(ごと)く筆(ふで)をなす事(こと)

いかに
しる美の
びん
いかに
いかに
いかに

の
びり
り
た
た
た
た

此
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

思
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

空
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

描
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

24mm x 11mm

七
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

茶
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

各
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

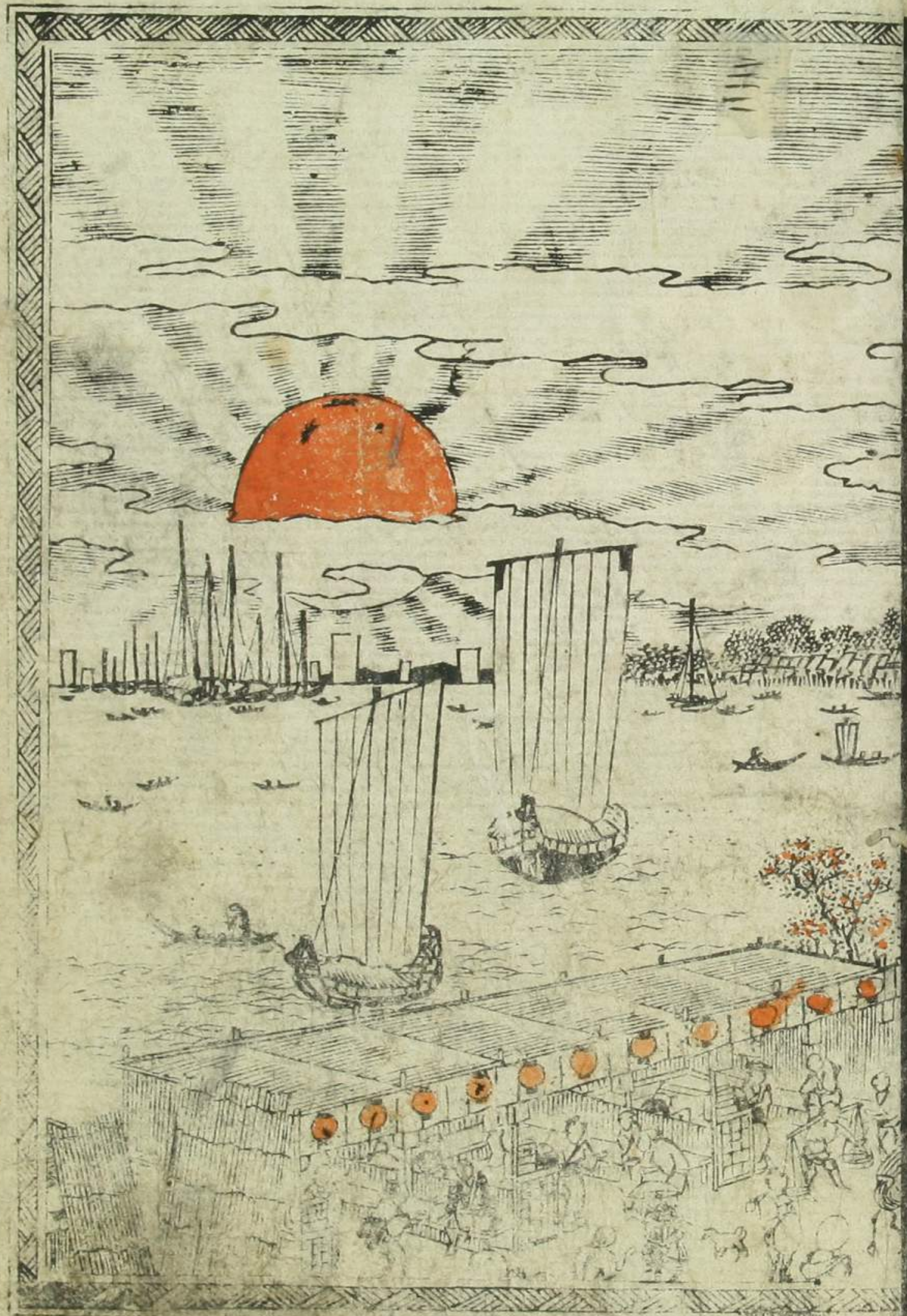
各
いかに
いかに
いかに
いかに
いかに

天保十二
漢

釋文述



天保の





遊戯の

六個

作者

代

著述

延

稟伏

濱



和合人三編卷之上

江戸

童戯人

瀧亭鯉丈編

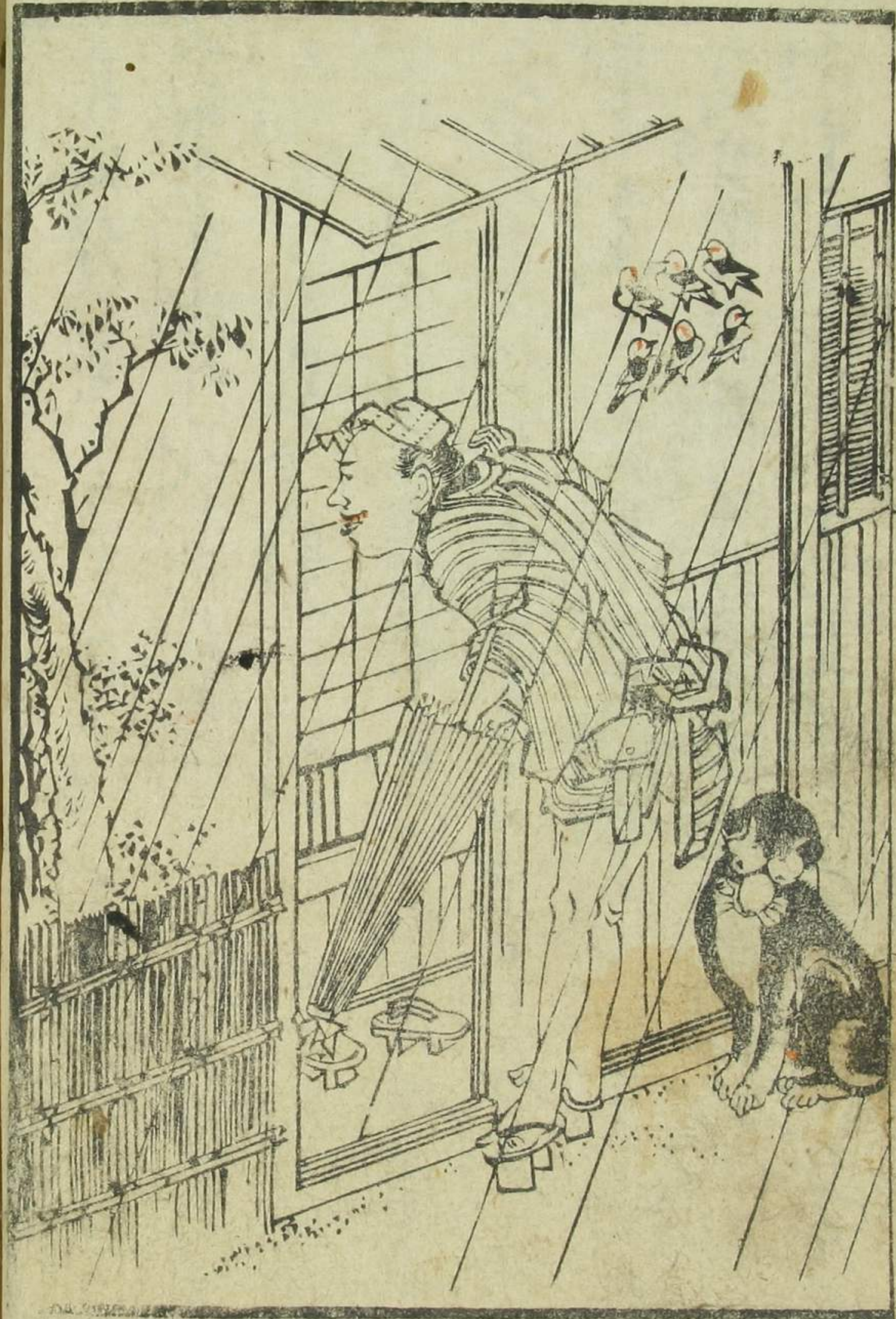
秋きぬと目らふさやふんねども風のきよも空
 暮れふもすこしもさつね独楽仲るおのゑを
 親父のまき物。うらり七巻を氣楽共びし由林の中
 雨志んくともある夕ぐせ。しんぎんびしき独身共
 かの去場六が門はうらり。まき入らうらうら。まき
 ねんらうら。あつげの雨はがホッテリ。まきほめふ下
 貴族のやえ。おま

手^み 耳^みのきとたれど。貴^い侍^{ざん}で地^ちにが^ちら^ちと^ち新^あら^らしく
 ち^まを^ま。新^あの^あ中^ちが^ち。一^まへ^まの^ち中^ちが^ち地^ちに^ち由^ち中^ちに^まハ^マ
 ま^まで^まお^まさ^まま^ま後^あへ^あう。そ^そん^んな^なう^うま^まづ^づ新^あの^あや^やう^うあ^あま^まや^やう。
 差^さで^で吾^わの^のも^も中^ち門^{かど}を^をり^り。拙^せ楽^らよ^よの^のま^まし^しづ^づお^おる^るの^のど^どろ^ろや
 差^さへ^へさ^さう^うサ^サ之^の人^{ひと}と^と。ご^ご門^{かど}と^と酒^{さけ}よ^よな^なる^るが^が。ど^どろ^ろも^もさ^さう^う酒^{さけ}
 御^{おん}中^{ちゆう}う^うを^をん。お^おい^いは^はの^のう^うう^うう^う。差^さで^で六^む何^{なに}う^う世^せ俗^{ぞく}一^{いつ}お^おえ
 中^{ちゆう}う^うご^ご差^さへ^へさ^さう^うよ^よ。ち^ちん^んと^とは^はい^いの^の死^しを^をひ^ひに^に繋^{つな}ぐ^ぐ。世^せ俗^{ぞく}一^{いつ}お^おえ
 亭^{てい}へ^へ押^お掛^かや^やう^うう^う。差^さへ^へさ^さう^うら^らう^う。だ^だと^とう^うち^ちと^と来^きて^て居^いる^る

お^おち^ちげ^げ一^{いつ}お^おえ^えは^はご^ごら^らハ^ハま^まご^ご地^ちに^にお^おと^と名^な付^{つけ}く^くお^おる^る内^{うち}裡^り
 の^のお^お公^{こう}が^がお^おさ^さま^まれ^れや^やう^う。差^さで^でさ^さう^うお^お考^{こう}ぐ^ぐと^とわ^わる^るや^やう^うす^すご^ご。
 あ^あん^んが^が楽^{らく}首^ぶへ^へ地^ちに^にお^おり^り。あ^あく^くと^とい^いお^おん^んあ^あお^おま^まき^きや
 ち^ちも^も何^{なに}でも^{でも}。お^おう^うう^うめ^めお^おさ^さき^きひ^ひ込^こで^で。と^と十^{じゅう}一^{いち}字^じに^にと^と下^げ付^け
 へ^へ。お^おう^う一^{いつ}が^がん^んと^と居^いる^る。差^さへ^へさ^さう^うよ^よく^く。揚^{やう}公^{こう}由^{ゆう}強^{ちやう}き^き由^{ゆう}。差^さ
 ま^まり^りお^お凝^{ねい}き^きの^のつ^つと^と。お^おわ^わう^うあ^あゆ^ゆす^すめ^めの^のヨ^よ。差^さへ^へと^と和^わ合^がさん^{さん}
 め^め五^ご。自^じら^らう^う清^{せい}空^{くう}五^ごと^と長^{ちやう}し^しと^と長^{ちやう}考^{こう}ヨ^よ。お^おう^う一^{いつ}の^のい^いち^ちを^をや^やア
 ね^ねら^ら。あ^あう^う一^{いつ}淨^{じやう}ら^らう^う。ち^ちん^んど^ども^も。あ^あん^んな^なれ^れが^がと^と年^{ねん}ま^まの^のい^い

もやりのど。交物ませものはまごりねい格とくとと。既いま後ののけいのけい
ちのつと斗たうやあるねといひの世よの中ちゅうどうう。おおももく
ちもよららうヨ 業ぎやうをやアのが。今いまうらうえ交まけけ
そうトあアねり。業ぎやうへまちるヨ。今いまのうと交けすま
あんまり新ちんあがね。あんぞか業ぎやうをとしえのえんご
が業へままづ集あつつと居かこの所とが。今いまのうと交けすま
志し死しりの小せう秋あき回わいとうなんとうのいひの類るいで。考くわうをわらうう。
はうを淋しい志しをかく。雨あめはなをふきけておく病

あの風かぜ。あびやうそうでふねへう。業ぎやうへまちるよ怪怪げんならう。
あらが寺清せいの兄弟ていが家の秘傳へんどうう。おまがあんぞ
又また風かぜして又またやう 屋や下げの兄弟てい。ちの病びやうの何といひ
百ひゃく姓せいどう 業ぎやうへまちるよ世の中ちゅうへん氣き風ふう循じゆん環えんをせ
ね。あんまりむちやど 業ぎやうへまちるよ怪怪げんの
業ぎやうでちの病といひが。何なにといひの百ひゃく姓せいどう。あまりあまり
ね。人ひとをやうど。梅うめ幸さうれのヨ。子こらあい。業ぎやうへまちるよ梅梅ばいの
み。し。そのものも。屋や下げれはんごといひうう。日ひ々々ね。の。



新編八景

一そまゝにこゝろのたよりめので。どうのいふおれ
 ぐの紙化人の様似とやを似てかゝるといふね。めん
 ざう。ツイ足長くとりの氣にあるのき。素一アそまゝの
 全抱こりの氣よあらう。今のうち氣成さう速さね人と
 流の川へでも連てつゝおやアあらね人。さういふことけ
 ろう。のうちのいと短せあつくさやう。コウ 積米どの気
 どのと不足のつく。佐々お徳よすのいふ「さうよ
 ぶ人ぶら 佐々 活山の様様よねと 素一コウ丁
 ぶら 佐々 活山の様様よねと 素一コウ丁

一おんべエ小日が暮らうが。そうツと巻にうら 悲び込ん
 ぶ花のうげうら。焼酎火成さうさうさうさうさう
 さうさう。さう一又舟さうお徳らうさうさう。雨のうらさ
 志のうら。お戸敷一あて肉でさゆの考うてわると見付
 おんさうはさうねんせ。一そんあうがー筆をさうさうさう
 トイウーとゆいさうさうドロさうさうさうさう。身を
 ぬんさうさうさう。一そんあうさうさうさうさうさう。身を
 何お徳らうめあう。そんあ甘ほさうさうねん。一使さうさうサ

とくおきぐみまきも海風を
「おおりのりもねむらひ
さうろきあんなる
「あらアはくさかたのきね人
解やアしねんといふ生解は
「おはちのて
「おけいへきり。之風よき
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて

形びう同いものなり。是は
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて
「おはちのて

井ノ口

そのはやくおもしろくお洞の中へ。まじりしものぢやんと
あつひつらふ。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
はあはれをまゝのあつ。ツツツとつらつら。百も二百もあつ。まじり
そんなあつおあつ何とあつ。一ツツとつらつら。まじり
別心来。一勝美子。一勝美子。一勝美子。まじり
新一の都合のあつ。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
づらつら。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
まじり。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の

こつらつら。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
けへまがらつ。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
うらめし。お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の
お一子字が妙つてわろせ。そのおア一の

お一子字

お一子字

志さうりふ。除穢無憂とのつけまど。たうをば方づきの懸
 奉に用ひるふ。焼燄方人せいのるサ。見んきおろふ人の修り
 大らちやうざらう。さへし多。おあ人もめんどうさうのりむら
 へのぞ。さうの虫かあるぜ。バクめんざらふるなるおひがす。

ありき 車かたちのときあくるさいやうなるわんたのた。号引マシタ
 志はうきまちら。のあげんおあさうらうとつらうとつらう。まさく
 七めんどうなるみんひのひのとあふ。あんととそあきらむふたま
 少くせんくたふり名をこぼさう。たむさうくさう。ハヤと

さまのそ。戸を打まぐら。まをでたふへんざらう。毒酒があつ
 ちり戸れをたむよぶのよ。一分をさうとあふ。各人の下あともかく
 まく屋せう。まへさうまへ人あふ。戸のまを打くまうかいハカ。え
 お其はなすト戸ねん。一其はでさう。たうのはゆりう。まへ
 何サ。是も弦があらうヨ。侍扱みじがせ。まへに大さう紙をヨ
 参へたまさう心もあん心もサ。戸のをげん。才和次さんくと
 吸サ。ざらうりとあふ。いんと人があむサ。ハヤとあらうま
 和次さんくとサ。そま。見下あふ。こらうめ人。おまが侍扱すわが

新編八雲集

おれんころる。是則信^{たてま}ごらう。侍^{まへ}授^たと^は則^{すなは}法^は之^をうけらと
おのサ^{おの}入^いこ^こま^まと^との^の西^{にし}を^を越^こえ^えら^らる^る居^いら^らず^ず。
そ^その^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。
の^のら^らが^が七^{しち}め^{めん}ん^んの^のち^ち。

あめあめらう。い^いく^く。あ^ある^るあ^あど^ど人^{ひと}の^のえ^えら^らび^びを^をね^ねら^らめ^めど。
一^いし^しふ^ふ一^い二^に夜^やの^の智^ち恵^えれ^れら^らる^るみ^みも^もあ^ある^ると^とえ^えら^らる^る。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
仕^し掛^{かけ}中^{ちゆう}う^うト^とお^おね^ねら^らる^る。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。
ま^まま^まに^に針^{はり}を^をま^まら^らぶ^ぶと^と。ま^まま^まで^で本^{ほん}清^{せい}が^がお^おま^まら^らう^う。

新編八雲集

新編八雲集

手内トシの仕掛をらうらそまらるるまらるるトのまらんご

おちさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

おとさくおとまらるるら。まらるるまらるるまらるるまらるる

新編の...

のこらう。こし今業ハ境が言ひうら。無能をあしせし人
かみみするが。かみみさうふ。揚三ハちげ人ねが面白
何故を多たのさう。火の煙を問へたまえなむむりくと蓋人
横が去勢を知らぬやうふえを長くともうつけな。何
ともしお目こえの煙があらけくとて。又とむね人おまが吳
えんさうさうぞやあさのー。兼ハ三人のま守よりこそあれ
らや。まのへあそい栗の方で終日あつてけな。然り
み川とむよもやうのま。揚三ハ一尺時日書山ぞう。おかわら

あんぞん 懸のう人の女とら紙すものさう。ちりやアさうも
仕方がね人おまが 勢紙おさねを。あまの毛介のあ紙兼
末にさうらう。あまよんねなく。可庵んをりの勢をさせと
やまの。おねががねねとせが あまぶ。是下がゆくと又世紙
あまらとりみえんさう。こ天地のお邊で 兼イサむむりくと
まがはれさこの泡とさまこまら。アよくあやべなぞ 兼人
めど是ハ。さうち人由あ願ハあげらまね人の又とむね人を
たむく。さうらうのまもあなくけうらのさ。おねらあぞの仕

新編の...

十五



和歌山

和歌山



和歌山
 利巧
 山生
 瓶

和歌山

和歌山

あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。
あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。
あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。あやむ。まなす。の。

